

2005 年度

活動報告及び収支決算報告書



日本カトリック信徒宣教者会

2005 年度 日本カトリック信徒宣教師会 活動報告

1. 概要

2005 年度は2名の派遣候補者を迎え、研修後、それぞれカンボジア、東ティモールへ派遣した。派遣候補者研修では、日本女子修道会総長管区長会「生涯養成コース」など、外部の授業に積極的参加するほか、多くの講師による研修や課外授業を行った。授業において、信徒宣教師とは何かということについて深く掘り下げ、信徒宣教師として生き活動するという事についても考えを深めた。また、従来行っていた中国長期研修を見直し、現在派遣を行っている派遣地に赴き、活動の実際を見て体験できる研修を行った。

活動においては、タイ派遣者がカンボジアを訪れる機会を得、いつもは顔を合わせる事のない派遣者同士の交流を行い、現在の活動やそれぞれの想いを分かち合い、自分達のミッションについて考えることが出来た。

タイでは、従来のカレン族支援に加え、ラフ族支援の担当につき、新しい活動をはじめた。

カンボジアでは、ステンミエンチャイゴミ集積場の活動に、「Die Sternsinger (ドイツ・カトリック団体)」から支援金が直接交付された他、コンポルアン水上村の活動に子ども達の通学船購入資金が「日本カトリック海外宣教師を支援する会」から交付された。また、コンポルアン水上教会・識字教室改築費用を日本の支援者に依頼するなど、新しい動きが出てきた。

ミクロネシアの日本時代の証言集めは123名もの方々から集めた証言を冊子にまとめる作業を行った。

国内活動では、従来首都圏で行ってきたイベントの会場を福岡教区カトリック大名町教会聖堂に移し、活動報告にあわせ、カンボジア高校生による伝統舞踊公演を行った。

東ティモール派遣の1名の信徒宣教師が任期短縮し帰国、フィリピン派遣の1名の信徒宣教師が任期を短縮した。また、ミクロネシア派遣の1名が現地での活動を終え帰国し、日本において活動を継続した。

各国派遣状況及び会員数は以下のとおりである。

2006年3月31日現在の派遣国と派遣者

カンボジア…4名、タイ…2名、東ティモール…1名

計 4ヶ国 7名

2006年3月31日現在の会員数 2,697 (個人・団体)

内訳

個人… 1,190、教会… 339、修道会… 854、学校… 187、その他… 127

2. 各国活動

(1) カンボジア

1992 年 4 月より復興に取り組むカンボジア人、帰還難民者の支援をきっかけに信徒宣教師の派遣が開始された。バタンバン州にて孤児院におけるソーシャルワーク支援、洋裁技術支援・ハンディクラフト製作による女性の自立支援、スヴァイリエン・コンボンスピー州では、試験農場、幼稚園支援、カンボジア人による NGO を通してのコミュニティ開発支援を行ってきた。

1996 年 6 月 14 日カンボジア政府に JLMM カンボジアとして国際 NGO 登録を行った。

1998 年 1 月からはカリタスカンボジアとの協働によりプノンペン市にステンミエンチャイ地区ごみ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援、2001 年 12 月よりバタンバン知牧区内プルサート州コンボンルアンの水上村における関わりを展開している。

2002 年度より浅野美幸（横浜教区）、2003 年度より平西紀（鹿児島教区）、2004 年度杉村太郎（大阪教区）を派遣。2005 年度は高橋真也（新潟教区）を派遣した。高橋は 2005 年 12 月より 6 ヶ月の語学研修開始。

2005 年度は、プノンペン市ステンミエンチャイ地区ごみ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援を浅野と杉村が担当し、トンレサップ湖上の村コンボンルアンの活動を平が担当した。

主な活動

I ステンミエンチャイ地区 ゴミ捨て場周辺に暮らす家族のための生活向上支援

1. 対象地域

プノンペン市郊外ステンミエンチャイ地区のゴミ捨て場に隣接しているルッセイ村。主にゴミ捨て場を収入源として暮らしている家族 115 世帯。

2. 活動概要

1) プテア・コマ（子どもの家）

昨年度週 4 日展開していた授業を、2005 年 10 月から週 5 日実施に変更。新たに金曜日にクメールダンスの授業を取り入れた。年齢、能力別に 2 クラスに分け、月曜から金曜の午前 8 時 45 分から 11 時まで授業を行なった。

貧困や家庭の事情で小学校に入学していない子ども、及び小学校退学や落第、授業についていけない子どもが多い地域での基礎的社会能力や知的能力を学び取れる経験の場として活動を実施した。

a) プテア・コマ トム（大きな子どもの家）

対象年齢：クメール語の読み書き、1 から 10 の数字が分かる 6 歳から 12 歳の児童対象。

実施内容：クメール語の識字教育、簡単な足し算・引き算、体育、音楽、図工、お絵かき、塗り絵、絵本の読み聞かせ、クメール（カンボジア）ダンス、保健衛生道徳指導

b) プテア・コマ トーチ（小さな子どもの家）

対象年齢：クメール語の読み書きが出来ない3歳から就学前の幼児対象。

実施内容：クメール語の読み書き、1から10の数字、体育、音楽、図工、お絵かき、塗り絵、絵本の読み聞かせ、クメール（カンボジア）ダンス、保健衛生・道徳指導

2) 豆乳プログラム

栄養価の高い食品を継続して摂取するのが困難な地域にあり、子どもたちは栄養不良から実年齢より幼く見えることがある。健康を持続するためにも、栄養のある食品を摂取することは重要であるため、プテア・コマにおいて一日の終わりに子ども一人ひとりにコップ一杯分の豆乳を提供していた。また幼すぎてプテア・コマに来ることができない乳幼児に対しても豆乳を安価で販売した。

3) 医療サービス・家庭訪問

ゴミ集積場内の分別されることなく捨てられるゴミには、ビンのかけらが散乱し、それによって切り傷、皮膚疾患が絶えない。また人々が生活する村内においても、道端や家の周囲にゴミが散乱している。

家には消毒薬や治療薬も無いため、傷が悪化する前に簡単な傷の手当てと指導を行った。プテア・コマに来る子どもたちや、村内を巡回し傷の手当てを行った。

乾季になると燃やされる煙が村にも流れ込み、頭痛や呼吸器関係の病気を引き起こす。風邪の予防法をアドバイスしたり、病院を紹介したり、病院までの交通費を援助した。また問題を抱える家族には緊急援助を行った。

4) 石鹼キャンペーン

劣悪な環境のゴミ集積場に通い、生活を支えている人たちは、生活・衛生環境不良のため皮膚疾患が多く見られる。貧困家族115世帯に月2回、石鹼を安価で販売、虱対策用石鹼の販売も行った。

5) 女性グループ

家庭の生活状況を改善していく役割を担っている女性たちと共に、自ら健康・生活状況向上のためのグループ作りを行った。

衛生指導の他に、子どもへの教育の大切さを伝え、小学校の入学手続きの補助、PSE（フランスのNGO）への奨学金の申請の補助なども行った。

6) 水浴びプログラム

プテア・コマにおいて、毎週日曜日、礼拝会のシスター方により子どもたちの水浴びプログラムを実施した。普段洗わない耳の後ろや襟首などを丁寧に洗う指導などを行った。

体の傷や皮膚疾患への薬の塗布、耳掃除、爪きりなどもあわせて行った。また、子どもたちの洋服があまりにも汚れているので、子どもたちが洗濯できる場所も提供した（乾季の時期のみ実施）。

7) 屋台プログラム

2008 年にはゴミ集積場の閉鎖が予定されている。これにさきがけ、ゴミのリサイクルで生活している家族を対象とした「屋台貸し出しプログラム」を検討した。実際に屋台で生計を立てている人たちへの聞き取り調査を 2006 年より行っている。

8) その他

- a) カリタスカンボジアの職業訓練校で美容技術を学んでいる学生たちをプテア・コマに招き、月に一回無料体験美容院を開く。(5 月～10 月)
- b) プテア・コマにおいてクメール正月のお祝いを行う。
- c) Fr. Olivie が運営する学生寮の男子大学生たちがプテア・コマにおいてボランティアでクリスマス会を開催した。
- d) プテア・コマにおいて卒業式を行った。
- e) 日本外国語専門学校、チャリティーコンサートの収益金の運用と活動・決算報告。
- f) 菊名教会基金の運用と活動・決算報告。
- g) 助成金申請。(2005 年 12 月)
- h) 教育省との契約を結ぶため書類作成。(2005 年 10 月)
- i) 教育省主催の識字大会にプテア・コマから子ども 5 人が参加した。
- j) 教育省提供のカンボジアテレビで、プテア・コマが放映された。

II プルサート州水上村コンボンルアン 生活向上支援

1. 対象地域と地域概要

プルサート州水上村コンボンルアン

水上村コンボンルアンは、カンボジアのほぼ中央にあるトンレサップ湖の上に位置している。この村では 1,600 世帯以上の人々が船の上で生活している。民族の構成は、約 1,000 世帯がベトナム人で、その他はクメール人とチャム族の人々となっている。

人口は全体で 6,000 人を超える。住民は主に漁業で生計を立てているが、貧困世帯が多く生活全般に様々な問題を抱えている。水上村は電気、ガス、水道はなく、人々は生活用水として湖の水をそのまま利用しているが、生活廃水や家畜の排泄物、ゴミなども全て湖に廃棄しているため、水質汚染は著しく、健康に及ぼす影響も大きい。また、多くのベトナム人はクメール（カンボジア）語が話せないために公共機関へアクセスすることができず、カンボジア社会から孤立した状態になっている。そのため医療機関へかかることができず、病気を悪化させそのまま死に至るケースも多い。子どもの場合、言葉の問題から公立の学校へ通えないなどの問題がある。

2001 年からこうした問題に対処するため、バツタンバン教区、JLMM カンボジアと住民の協力の下、水上教室を設置し、識字教育、住民によって組織された基本的な保健サービスの管理、運営を行ってきた。2004 年 8 月より平西紀（2003 年度派遣）がプロジェクトアシスタント 1 名、ヘルパー 1 名と共に活動している。

2002 年に横浜教区カトリック藤沢教会「カンボジア福祉基金藤沢」を設置。この基金の果

実及び原資の一部をコンポソルアンの活動の一部に充てている。

また、水上教会・識字教室の老朽化に伴う改築・増築費用支援を、バツタンバン教区から受け、日本の支援者に向け募金活動を開始した。

2. 活動概要

1) 保健衛生プログラム

①水浴びプログラム

週1回の水浴びプログラムを継続した。衛生指導や栄養指導も合わせて行い、健康状態の把握、爪切り、耳掃除、薬の塗布などのケアも継続している。水浴びプログラムに通う子どもたちの、湿疹や虱はほとんど見られなくなった。また、JLMM カンボジアで準備している湿疹用石鹸、虱用石鹸を自ら買い求め日常的に使用するようになってきている。参加者は20～25人。住民や母親の参加・協力もあり、村人の健康や衛生に対する意識が徐々に向上している。

②病人支援プログラム

病院受診のための交通費支援を継続した。ただし軽症のケースに対しては、栄養や処置に関する指導を行い、健康管理などの教育・指導、食費の支援などを行った。

搬送した病人は、腸チフス、HIV/AIDS、肝硬変、癌、結核など様々であった。病人支援数36名、52件あった。

支援内容は受診に伴う薬代、食費、諸経費の支援、緊急食糧援助、病院への同行や手続き、薬を受け取るための代行受診、見舞い活動、相談活動も行った。

③ホームケアプログラム

病人の家庭を訪問し、在宅での簡単なケアや処置を実施。また本人や家族、家族に対し健康指導や栄養指導、相談活動なども合わせて行っている。

2) 母子保健に関する活動

2005年度は訪問活動を展開した。産後の母親と乳児を訪問し、相談・指導活動を中心とした。粉ミルク支援は原則として行わず、母乳不足の場合は、母親への栄養指導と食費援助を行った。母親が病気の場合などに限り、粉ミルクを支援した。

3) 識字教育プログラム

2005年5月(16～18日)に識字教育の指導にあたる先生のための研修を行い、併せて識字教室のカリキュラムも全面的に見直した。これまでの識字教育とともに、情操教育も取り入れ、子どもが楽しみながら学べるよう改善した。

また識字教室の先生達とのミーティングを月1回実施した。2004年度は識字教室から24人の生徒が公立小学校へ入学したが、水上での通学が困難なことなどから、全員が中途退学した。そのため2005年度は「海外宣教師を支援する会」からの援助で通学船を購入し、10月の新学期に16名の生徒を識字教室から公立小学校へ送り出した。保護者との通学船使用、通学継続についての契約を取り交わし、現在は数名の退学者があったものの多くの生徒が継続して通学し

ている。

識字教室に関しては、教材の支援や先生の研修費の支援を実施。

4) 家庭訪問調査

昨年度まで行ってきた家庭訪問調査は、乾期の間の船の家の移動が多く、訪問が困難であったため、現在、一時中止している。今後は調査方法、調査内容の見直しを行う予定である。

5) 栄養改善プログラム

2005 年 2 月より新たに栄養改善プログラムを開始した。栄養価の高い食事を提供し、合わせて栄養指導を行っている。

子どもには豆乳を、病人、授乳期の母親、老人に対しては、ボボー（野菜入りのおかゆ）の配給を開始した。栄養プログラムは定着し、子どもたちは野菜の名前を覚えたり、老人たちにとってはプログラムの時に集まることで交流の場になったりと、様々な良い影響が現れた。

2005 年 12 月にプロジェクトアシスタントが退職し、その後はプログラムを縮小して行っている。

6) 青年活動

2005 年 3 月より青年の活動を開始した。定期的なミーティングを重ね、レース編みやポストカード作成の活動を行った。しかしながら途中で指導する人がいなくなったために、継続できなかった。

11 月以降は新たにマイクロクレジットプログラムを開始。青年たちの仕事への投資にお金が生かされており、返済率もこれまで 100%である。また教会行事への参加、手伝いも積極的に行った。

2005 年 12 月、初めての青年たちの遠足を実施した。

7) 奨学金

2005 年度は 2 名の学生に対し奨学金を支給した。1 名はコンポルアン教会識字教室で勉強するために遠方からきた男児への生活費のための奨学金を支給し、もう 1 名はバタンバンで縫製を学ぶコンポルアンの青年の生活費・教材費のための奨学金を支給した。

8) スタディーツアー、訪問者の受け入れを行った。

- ① JLMM スタディーツアー（コンポルアン訪問 9/7-8）
- ② 奄美・静岡スタディーツアー（1/28-2/3、コンポルアン訪問 1/30、1/31）
- ③ JLMM 研修生長期海外研修、佐藤邦子さん（コンポルアン訪問、7 月 2、3 日）
- ④ その他 9 名 コンポルアン宿泊

9) その他

- ・ 平西紀一時帰国（6/18-7/12）
- ・ バタンバン教区ミーティングへの参加（2005/11/15-17 平、パナリー）

- ・ コンポルアン担当司祭との定期ミーティング
- ・ クリスマスの子ども企画担当 (2005 年 12 月)
- ・ 地域機関への訪問
- ・ 「海外宣教師を支援する会」への助成金申請の準備 (2005 年 10-11 月)
- ・ カンボジア福祉基金藤沢の運用と活動・予算・決算報告 (2005 年 4 月、2006 年 1 月)
- ・ コンポルアン教会・識字教室改築についての募金活動 (2006 年 3 月～)
- ・ カトリック青年の集い 2005 in バッタバン参加 (2005 年 8 月)
- ・ 現地スタッフ

採用: 識字教室ヘルパー 1 名採用 (2005 年 11 月～)

通学船運転手 1 名採用 (2005 年 10 月～)

退職: プロジェクトアシスタント 1 名退職 (2005 年 12 月)

ヘルパー 1 名退職 (2006 年 3 月)

2005 年 3 月 31 日現在

通学船運転手 1 名

III その他の活動

a) スタディーツアー・ボランティア・活動地見学受け入れ

下記の日程でカンボジアスタディーツアーを受け入れた。

2005 年 9 月 2 日～9 月 12 日 JLMM カンボジアスタディーツアー

2006 年 1 月 28 日～2 月 3 日 奄美・静岡グループスタディーツアー

2006 年 3 月 27 日～4 月 2 日 近畿日本ツーリスト・JLMM 中高生カンボジアスタディーツアー

その他、ステンミエンチャイにおいては年間を通して 26 組のボランティア・見学・取材を受け入れた。

b) 人事

7 月 15 日付けでプロジェクトアシスタントの Sann Sathya が退職。

10 月 1 日付けでプロジェクトアシスタントとして Chhy Sothy を採用。

12 月 31 日付けでプロジェクトアシスタントの Chia Phannary が退職。(再掲)

9 月 13 日～15 日に新スタッフ採用のための面接を実施した。

c) 日本の修道会との連帯

ショファイユの幼きイエズス修道会カンボジア共同体、礼拝会カンボジア共同体とそれぞれ活動や事務的内容等のミーティングを開催した。

査証取得のための申請代行なども行った。ショファイユの幼きイエズス修道会への寄贈車両受け取り手続き代行も行った。

礼拝会のシスターが週に 2 回、プテア・コマの活動に参加。

d) ラチャナ・ハンディクラフト・バッタンバンの支援

ラチャナ・ハンディクラフトの商品を JLMM オフィスにて販売。バザー用品として東京への発送を行った。

プノンペン市内のレストランにおける販売活動は、2005 年半ばに一時休止し、2006 年度に

再開を検討する予定。

e) JLMM 海外長期研修

2005 年度海外長期研修においてのカンボジア研修にあたり 1 名の研修生（佐藤邦子）を受け入れた

f) 東京事務局との連絡調整

9 月 12 日～14 日、事務局長を交えプロジェクトアシスタントの面接。

12 月 7 日～9 日、事務局長と会議を持ち、コンボンルアン、ステンミエンチャイの活動の見直しを行なった。

g) 黙想会

10 月 30 日～11 月 4 日まで、礼拝会 Sr. 荻野指導による黙想会をコンボンソムで行った。

h) 合同分かち合い

2005 年 7 月 28 日 植松氏と共にテゼの集い

2006 年 3 月 19 日 カンボジアを訪れていたタイ派遣者 2 名とともに分かち合いを実施。

2006 年 1 月～ JLMM カンボジア共同体での月 4 回の分かち合いを開始。

i) JLMM カンボジア事務所移転

2005 年 12 月 20 日 JLMM カンボジアオフィス兼住居を移転した。

j) 一時帰国

浅野 美幸（2005 年 5 月 26－6 月 16 日）

平 西紀（2005 年 6 月 18－7 月 12 日）

k) 報告会

2005 年 5 月 29 日 横浜教区カトリック菊名教会（浅野）

2005 年 6 月 23 日 コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院（平）

2005 年 6 月 30 日 奄美中央病院（平）

2005 年 7 月 10 日 横浜教区カトリック藤沢教会（平）

（2）タイ

タイへの派遣は、2000 年度 1 年間のインターンとして、本橋奈々子（東京教区）をウボンラチャタニー教区、ラチャブリ教区、そしてチェンマイ教区のそれぞれの **DISAC**（Diocesan Social Action Center: 教区社会活動センター）に派遣したことから始まる。

本橋奈々子を 2004 年 1 月 9 日正式にチェンマイ教区 **DISAC** へ派遣。**DISAC** に協力し、少数民族支援（主にカレン族）のための農業指導およびハンディクラフト関連の活動を行う。2006 年 3 月 30 日に任期を終了した。

2005 年 2 月 17 日、日笠山万希子（2004 年度・福岡教区）を同 **DISAC** に派遣。2005 年 7 月までの語学研修期間を経て、少数民族のラフ族の教育支援を開始した。

主な活動

チェンマイ教区 **DISAC** の歴史は、宣教者たちが少数民族対象の活動を始めた 1931 年にまで遡るが、正式に設置されたのは 1975 年で、人的開発のための社会活動を目的としている。**CCTD**

(タイカトリック開発協議会) に属する 1 組織であり、代表は司教が務める。

タイには現在 10 教区あり、すべての教区に **DISAC** が設置されている。それぞれの地域に根ざした活動を実践していることから、教区により活動内容は異なる。タイ北部地方は少数民族が多いことから長年、少数民族との活動を展開してきた。チェンマイ教区 **DISAC** の活動範囲は、チェンマイ県、チェンライ県、プレー県、ナン県、ランプーン県、ランパング県、パヤオ県、メーホングソーン県の北部 8 県である。

チェンマイ教区 **DISAC** の活動は多岐にわたり、主に、聖書、女性、青少年、農業、カレン族（リーダー育成グループ、**Rice Donation**）、諸宗教との対話などが行われ、少数民族などでグループ編成され、それぞれが協力し合い、村において活動が行われている。

こうした **DISAC** において今年度、本橋奈々子は **DISAC** の活動の一つである少数民族支援事業の補助を行った。

少数民族が製作する伝統的な文様を使用した雑貨の販路拡大などを計画した。**DISAC** スタッフとの活動調整を終え、村での染色技術の講習会や手工芸、農業に関するセミナー、村の調査などを行い、2006 年 3 月 30 日に任期を終了した。

日笠山万希子は、チェンマイ市郊外にある **RTRC(Research and Training for Religio - Cultural Community)**内に設置されているラフ族事務所とポンパー村（赤ラフ族）を拠点として活動を行った。

RTRC では少数民族のためのセミナーやプログラムが頻繁に実施されており、他のスタッフと共にセミナーやプログラムの実施運営の補助などに携わった。

また、ポンパー村では教育支援活動の他、衛生教育、環境教育など、子どもや若者を対象とした活動を開始した。今後は、活動の対象枠を広げ、村人全体にこれらの活動を広げていくこととしている。

I 活動概要

本橋（活動対象：主にカレン族）

1) 農業グループ

- ・ 持続可能な農法として、日本の技術でもある木酢液を使つての堆肥作り、木酢液の作り方、使用方法についてのセミナーを開き、いくつかの村で試験的栽培や、効果測定を行った。
- ・ 農場を借り、ローカルスタッフと堆肥などを利用した野菜栽培を行った。

2) 女性グループ

- ・ 村近辺で採れる薬草を用いた堆肥作り、手工芸品の商品開発セミナー、染色などに用いる植物の在来種の保存採取と記録、織物の中にある模様メッセージの意味を記録と写真に残す作業などを行った。
- ・ 商品開発された商品のプロモーションについて、インターネットを使った販売方法などの検討を行った。同時に手工芸品が出来上がるまでの歴史、説明などを入れたパン

フレット作成も計画した。

- ・ 日本から訪れたスタディーツアー参加者のために、聖家族カトリックセンターから商品を買いつけ、教区事務所内にあるミッション・センターの売り場の品揃えを増やすとともに、活性化につなげた。貴重な織物や刺繍などを購入し、それを保存する活動も行なった。

日笠山（活動対象：ラフ族）

3) ラフ族支援

DISAC は現在まで 30 年間カレン族やローカルタイ人のサポートを中心的に行なってきたが、2004 年度よりニッポー神父やパイロット神父を中心とした、ラフ族との活動を行っている。ラフ族が抱えている問題について、共に解決していくための活動を展開している。現在は、ピトゥ（DISAC・農業専門スタッフ）とナハー（ラフ族出身で村在住）とともに活動を行っている。

ポンパー村での教育支援活動

チェンマイから北に数 10 キロ行ったところにある赤ラフ族の村、ポンパー村で活動を行った。

- ① 雨季の間数ヶ月間、学校に通えない子どもを対象に、食費と教材費の緊急支援を行なった。（カトリック横須賀三笠教会からの支援金を充当）
- ② 中学レベル以上の教育が受けられない村では、結婚という道しか残されていない若者のために教育の場を提供する活動をスタッフと共に行なった。6名の 12・13 歳女子の進学が決定した。希望者は他にもいるが、来年まで待たなければならない。継続してサポートできるように活動に取り組んでいきたい。

教育支援活動以外の活動

- ③ 薬を購入できない村人のために薬を購入、適宜配布した。
- ④ 村には木がないため、雨季に入ると水がたまり、不衛生になる。また、家庭によっては果物を購入することが難しい家庭もあることから、果物の苗木（レモン、ジャックフルーツ、マンゴー）を購入して、村で植林することになった。各家庭が世話をすることになる。
- ⑤ 村では、ゴミが処理されることなくいたるところへ廃棄されていることから、衛生的な環境をつくりだすため、清掃活動を行った。
- ⑥ 慢性的な病気や怪我が村で見受けられることから、未然に防ぐため衛生教育活動の計画を検討した。
- ⑦ ラフ語が中心の生活の中で、タイ語でふれあう機会を増やし、若者の連帯感、創造性、感受性を深めることを目的として、青少年少女によるレクリエーション活動を開始することとした。

II その他の活動

- 1) YPD (Young People for Development) 会議に DISAC スタッフと共に参加した。
 - ① YPD ハノイ (ベトナム) 2005 年 11 月 15 日から 12 月 3 日
 - ② YPD プノンペン (カンボジア) 2006 年 3 月 16 日から 18 日
- 2) JLMM カンボジア活動視察、スタッフとの分かち合い参加
2006 年 3 月 13, 14, 15, 19 日
- 3) 少数民族寮主催のスタディーツアーにて通訳手伝い (2 回) : 本橋
- 4) 英会話レッスン : 日笠山
 - ① 2005 年 3, 4 月の 2 ヶ月間、プライベートで週末空いている時間を利用して、DISAC スタッフ 2 名を対象にレッスンを行った。
 - ② 2005 年 5 月～10 月までの半年間、DISAC スタッフやその友人で YPD ハノイ会議出席予定者と教区に務める希望者に対して英会話レッスンを週 3 日間 (月、水、金) 開いた。参加者は 2 人から 8 名。1 回のレッスンは 1 時間から 1 時間 30 分。

(3) ミクロネシア連邦

山手雅子(2003 年度・福岡教区)を 2003 年 12 月 10 日にミクロネシア連邦チューク島へ派遣、ミクロネシア連邦を中心に教区と連携しながら日本時代の証言を集めた。

2005 年 3 月までに計 123 名 (男 75 名、女 48 名、延べ 139 名) の証言を集め、体調の調整及び小冊子作りの資料収集等のために 2005 年 4 月 4 日帰国した。

主な活動

日本時代の証言集作成

日本統治時代を生き抜いてこられた方々から、日本時代の教育、生活、社会情勢などをインタビューし、現代に平和へのメッセージとして伝え残す活動を行った。

2003 年 12 月から 2005 年 3 月までに 11 の島に行き、調査、インタビューを実施し、123 名終了した。

- | | | |
|-----------|-------------|------|
| ① 四季諸島 : | モエン島 (春島) | 36 名 |
| | デュブロン島 (夏島) | 23 名 |
| | フェフアン島 (秋島) | 9 名 |
| | ウーマン島 (冬島) | 9 名 |
| ② 七曜諸島 : | ウドット島 (月曜島) | 13 名 |
| | トール島 (水曜島) | 10 名 |
| | パータ島 (木曜島) | 8 名 |
| | ボレー島 (金曜島) | 7 名 |
| ③ その他の島 : | | 8 名 |

また、これらの背景となる資料を日本で収集し、さらに、123 名分の証言をまとめた小冊子の作成を行った。

(4) 東ティモール民主共和国

1999 年発足した東ティモール東部ラウテム県ロスパロス準郡トゥリスラ地区でプライマリ・ヘルスケアの普及啓発活動を行なう現地国際 NGO「東ティモール医療友の会(AFMET)」に、薬剤師と看護師を派遣したことから派遣活動を開始。

2003 年度に近藤周（東京教区）を、コーディネーターとして派遣。2005 年 4 月 26 日に体調を崩し任期を終えた。

2006 年 1 月 3 日佐藤邦子（名古屋教区）をコーディネーターとして派遣した。

主な活動（AFMET 活動報告より抜粋）

1) プライマリ・ヘルスケア（PHC）の普及促進

- ・ AFMET からの促進活動により、多くの村でコミュニティーヘルスワーカー（CHW）が村民に対して行うセミナーが開催された。各村での実施の際、村民からセミナーの内容に関する質問もあり、熱心な参加者も見られた。また、女性の参加者も多くみられ、特にハーバルメディスンセミナーは興味深く参加していた。
- ・ AFMET リフェラルセンターにてバイタルサイン測定及びマラリア検査手技を CHW 研修として実践トレーニングを継続した。3ヶ月に1度、すでに活動中の CHW を対象としたアドバンスコースセミナーを開催した。セミナー時には AFMET スタッフと CHW との話し合いも行われ、活動に関する問題点や他の CHW との交流を図れた。

2) 医療活動

AFMET リフェラルセンターへ患者が来ることが出来ない場合のみ訪問診療をし、必要に応じて病院へ移送する。昨年度第 1 四半期より、村人からの往診や移送の要望の際には、CHW が記入したリフェラルシートを対応の条件とするなどの移送基準を徹底したことにより、CHW によるリフェラルシートの活用が定着してきた。しかし、各村の CHW の認識に開きがあり、緊急患者ではない受け入れもみられた。

3) その他

- ・ 政府結核プログラムに参加し、結核治療を行った。
- ・ DHS（県保健所）主催のポリオキャンペーンに参加し、AFMET リフェラルセンターにて投薬を実施した。
- ・ 薬草石鹸のサンプルを作成した。軽度の感染症、炎症、また痒みに対する石鹸を開発、試作品が完成した。
- ・ 聖母訪問会女子寮（Mehara）において結核、下痢、デング熱、ハーバルメディスンについて PHC セミナーを実施した。受講者には修了書を授与した。

(5) フィリピン

2004 年度にイザベラ州で活動を行う CBHDP（Community Based Health Development Program）に泉純孝（鹿児島教区）を派遣した。CBHDP では、ヘルスワーカーを養成し、地域住民に対しプライマリ・ヘルスケアを実施している。具体的には、薬草を利用した医療、結核対策、鍼灸を利用した治療などである。

派遣者は、鍼灸師の資格を持ち、ヘルスワーカーへの鍼灸指導を行い、針灸治療のさらなる

普及とスキルアップのための指導を行ったほか、薬草の活用などの指導を行った。

2005 年 5 月 28 日任期を短縮し派遣を終えた。

3. 調査活動

(1) カンボジア 2005 年 4 月、6 月、12 月

JLMM カンボジアを訪ねステンミエンチャイ地区での活動並びにコンポルアンでの活動の計画及び整理を行った。(4 月)

JLMM カンボジアを訪ね、コンポルアン活動の計画、調整を行った。(12 月)

(2) タイ 2005 年 6 月、2006 年 1 月

チェンマイ DISAC を訪れ、現地での活動状況を見るとともに、スタディーツアーの実施計画の立案及び長期海外研修の受け入れ依頼等を行なった。(6 月)

チェンマイ DISAC を訪れ、現地での活動状況を見た。また、チェンマイ教区パヤオ DISAC を訪れ、今後の派遣可能性などを調査した。(2006 年 1 月)

(3) 東ティモール 2006 年 1 月

現地 AFMET を訪れ、事業の運営についての調整、派遣者の受け入れ調整などを行なった。

4. 研修

信徒宣教師派遣候補者として佐藤邦子（名古屋教区・平針教会）、高橋真也（新潟教区・米沢教会）の 2 名の研修を 2005 年 4 月 7 日から 11 月 12 日まで行った。佐藤邦子は仕事の関係上 4 月からの研修に間に合わず、一ヶ月遅れて 5 月 1 日からの研修参加となった。

今年度は通常行っている授業の他に、新たに日本女子修道女総長管区長会「生涯養成コース」の授業への参加（増田神父：キリスト論、諸宗教の神学）、（鈴木隆氏：信徒の時代を生きる）や、大盛氏（教会史）の授業が加わり、さらに充実したものとなった。

また、昨年度に引き続き、社会に広く目を向けることが出来るよう Sr.伊従直子（メルセス会）による被差別部落問題、ホームレスや女性問題などを取り上げた荒川体験を行う他、Sr.田邊（識別と祈り）、有光氏（聖書深読）などを非常勤講師として招き、期間中に数回の授業を行い、社会問題や自分自身への気付きなど派遣後求められる知識や経験が積める研修内容とした。

さらに課外研修では、昨年までの豊丘体験に代わり、静岡市にある「ラルシュ・かなの家」にて知的ハンディを持つ人たち（仲間）と共に生活しながら、作業や関わりの中で「共に生きる」ことの大切さを学ぶ体験学習を行った。また、例年中国にて行われている長期海外研修も、今年度は、現在 JLMM が派遣している国（カンボジア・タイ）に長期滞在し、その国の人々、文化に触れ、また現派遣者と共に活動に参加する中で、自分を見つめ、ミSSIONナリーとして派遣されるための見極め、また準備期間とした。

オリエンテーション

2005 年 4 月 7 日～8 日

通常授業

2005 年 5 月 11 日～10 月 20 日

荒川体験

2005 年 5 月 13 日

川崎体験（在日外国人問題、労働者問題）

2005 年 5 月 23 日～28 日

かなの家体験（「共に生きる」ことの体験、農業体験）

2005 年 6 月 6 日～11 日

中間黙想

2005 年 7 月 12 日～15 日

長期海外研修（タイ・カンボジア）

2005 年 7 月 30 日～8 月 27 日

最終黙想

2005 年 10 月 30 日～11 月 1 日

派遣式

2005 年 11 月 12 日

また、将来派遣地において教会や他の NGO などと連携し活動する経験につなげることや、日本での人とのネットワークを深め支援者を増やすことなどから、例年どおりアポストラートを
行った。受け入れ先は次のとおりである。

カトリック菊名教会（高橋）

エポペ（高橋）

女性の家 サーラー（佐藤）

カラカサン（佐藤）

5. 派遣

研修を終了した 2 名の信徒宣教師の派遣を行った。

また、各々の所属教会や関係の深い小教区において派遣式を行った。

派遣者

高橋 真也（新潟教区米沢教会） カンボジア 2005 年 11 月 29 日派遣

佐藤 邦子（名古屋教区平針教会） 東ティモール 2006 年 1 月 3 日派遣

派遣式

2005 年 11 月 12 日（土） コングレガシオン・ド・ノートルダム 調布修道院

小教区での派遣式

2005 年 11 月 20 日（日） カトリック松戸教会

2005 年 11 月 27 日（日） カトリック米沢教会

2005 年 12 月 4 日（日） カトリック平針教会

6. 派遣候補者の選考

2006 年度派遣に向けた派遣候補者を 2005 年 8 月から募集を開始し、試験を実施した。また、
止むを得ない事情で試験日に受験できなかった応募者 1 名の試験を、別途 12 月 23 日に行なった。
結果 4 名の合格者が出たが、そのうち 1 名は研修開始直前に家庭の事情により辞退し、3 名での
研修開始となる。

試験日：2005 年 11 月 23 日

：2005 年 12 月 23 日

会場：日本カトリック信徒宣教師会 調布研修所

合格者数：4 名

7. 広報

(1) ミッション (ニュースレター) 発行 他

No.100~105 計 6 号発行

No.	発行日	部数	内容
No.106	2005 年 6 月 15 日	3,000 部	<ul style="list-style-type: none"> ・2005 年度新派遣候補者のご挨拶 ・カンボジア・スタディーツアーを終えて ・2004 年度活動報告・2005 年度運営委員等の紹介 ・2005 年ベトナム・カンボジアスタディーツアーのお知らせ
No.107	2005 年 8 月 31 日	3,000 部	<ul style="list-style-type: none"> ・特集：各派遣者からの平和のメッセージ ・戦後 60 年の節目に感じたこと ・タイ発「雨が与えてくれたいい話」 ・2006 年度派遣候補者募集のお知らせ
No.108	2005 年 12 月 12 日	3,000 部	<ul style="list-style-type: none"> ・特集：2005 年度派遣式 ・JLMM チャリティーイベント開催 ・カンボジアからの手紙 ・タイ発「25,000 バーツの笑顔」 ・タイ派遣者 YPD 参加
Christmas	2005 年 12 月 25 日	3,000 部	<p>クリスマス特集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣地からのクリスマスメッセージ ・事務局よりご挨拶 ・クリスマス献金のお願い
No.109	2006 年 2 月 16 日	3,000 部	<ul style="list-style-type: none"> ・カンボジアからの便り ・東ティモールレポート ・少数民族の暮らしの中で ・カンボジア便り
No.110	2006 年 3 月 31 日	3,000 部	<ul style="list-style-type: none"> ・タイからの手紙 ・コンポルアン緊急支援のお願い ・カンボジア便り ・イースター献金のお願い

(2) 広告掲載等

カトリック新聞 月 1 回年 15 回広告掲載。() は掲載サイズ

2005 年 4 月 17 日 活動支援願ひ (通常)

2005 年 5 月 22 日 活動支援願ひ (通常)

2005 年 6 月 9 日 スタディーツアー参加募集 (普通)

2005 年 6 月 21 日	活動支援願い（普通）
2005 年 7 月 3 日	スタディーツアー参加募集（普通）
2005 年 7 月 10 日	スタディーツアー参加募集（普通）
2005 年 7 月 17 日	スタディーツアー参加募集（普通）
2005 年 8 月 17 日	派遣候補者募集（大）
2005 年 9 月 4 日	派遣候補者募集（大）
2005 年 10 月 23 日	派遣候補者募集（大）
2005 年 11 月 06 日	派遣式お知らせ（通常）
2005 年 12 月 25 日	クリスマス献金（通常）
2006 年 1 月 29 日	活動支援願い（通常）
2006 年 2 月 19 日	スタディーツアー参加募集（通常）
2006 年 3 月 19 日	イースター献金（通常）

その他、2006 年 1 月 29 日 近畿日本ツーリスト主催
カンボジアスタディーツアー（特大）掲載協力

（3）チラシ配布

JLMM の広報、会員募集、募金を目的として郵便振替用紙付きカラー版チラシを作成し国内の教会へ配布した。

クリスマス	20,000 部作成
イースター	20,000 部作成

（4）新聞・雑誌記事掲載

2005 年 8 月 28 日	カトリック新聞	扉をあけて元気さん：「山手雅子」
2005 年 10 月 23 日	カトリック新聞	世界宣教の日特集：JLMM を紹介
2005 年 11 月 20 日	カトリック新聞	派遣式を紹介
2005 年 11 月 20 日	カトリック新聞	カンボジア伝統舞踊と JLMM 活動報告会

8. 報告会

長期海外研修報告会	2005 年 9 月 17 日（土）	調布研修所
カンボジア報告会	2005 年 5 月 29 日（日）	カトリック菊名教会
	2005 年 6 月 23 日（木）	コングレガシオン・ド・ノートルダム 調布修道院
	2005 年 6 月 30 日（木）	奄美中央病院
	2005 年 7 月 10 日（日）	カトリック藤沢教会
	2005 年 10 月 28 日（金）	カトリック大名町教会
東ティモール報告会	2005 年 6 月 29 日（水）	上智短期大学 聖マリア寮
	2005 年 7 月 17 日（日）	カトリック麻布教会
	2005 年 12 月 18 日（日）	カトリック麻布教会

ミクロネシア報告会	2005 年 5 月 15 日 (日)	カトリック渋谷教会
	2005 年 5 月 22 日 (日)	カトリック足立教会
タイ報告会	2005 年 4 月 10 日 (日)	カトリック三笠教会
その他	2005 年 5 月 27 日 (金)	横浜雙葉中・高等学校
	2005 年 6 月 3 日 (金)	カトリック三軒茶屋教会
	2005 年 6 月 13 日 (月)	田園調布雙葉中・高等学校
	2005 年 7 月 10 日 (日)	カトリック山手教会
	2005 年 9 月 18 日 (日)	青少年委員会 (北海道)
	2005 年 9 月 29 日 (木)	横浜雙葉中・高等学校

9. バザー・イベント等への参加

小教区等で行なわれているバザーなどに出展した。

2005 年 4 月 10 日 (日)	カトリック雪ノ下教会	福祉バザー
2005 年 4 月 24 日 (日)	インターナショナルデー	(カトリック関口教会)
2005 年 5 月 29 日 (日)	カトリック由比ガ浜教会	バザー
2005 年 9 月 17 日 (土)	聖心大学	宮代祭
2005 年 10 月 1 日 (土)・2 日 (日)	グローバル・フェスタ	(日比谷公園)
2005 年 10 月 22 日 (土)・23 日 (日)	カトリック山手教会	バザー
2005 年 10 月 23 日 (日)	カトリック藤沢教会	バザー
2005 年 10 月 30 日 (日)	カトリック雪ノ下教会	バザー
2005 年 11 月 3 日 (文化の日)	カトリック舞子教会	バザー
2005 年 11 月 6 日 (日)	カトリック大船教会	バザー
2005 年 11 月 6 日 (日)	カトリック横須賀三笠教会	バザー

10. スタディーツアー

外部の依頼や会員に向けスタディーツアーの企画を行った。

- (1) JLMM 夏のベトナム・カンボジアスタディーツアー
 - 2005 年 8 月 18 日 (木) 事前説明会
 - 2005 年 9 月 2 日 (金) ～9 月 12 日 (月) 参加者 7 名
 - 行程：ホーチミン→プノンペン→コンポルアン→シェムリアップ
- (2) 奄美・静岡 カンボジアスタディーツアー
 - 2006 年 1 月 28 日 (土) ～2 月 3 日 (金) 参加者 5 名
 - 行程：プノンペン→コンポルアン→シェムリアップ
- (3) 近畿日本ツーリスト主催 中・高校生対象 カンボジアスタディーツアー
 - 2006 年 3 月 18 日 (土) 事前説明会
 - 2006 年 3 月 27 日 (月) ～4 月 2 日 (日) 参加者 4 名
 - 行程：プノンペン→シェムリアップ

11. チャリティーコンサート

福岡・カトリック大名町教会にて、JLMM チャリティーイベント「カンボジア伝統舞踊と JLMM 活動報告会」を企画・実行した。

カンボジアでの活動で協力関係にあるショファイユの幼きイエズス修道会が、伝統舞踊を通して文化交流を行うことを目的として、カンボジア・タケオ省から招いた高校生を迎え、福岡での JLMM チャリティーイベントを開催した。

題名：「カンボジア伝統舞踊と JLMM 活動報告会」

主催：日本カトリック信徒宣教師会

期日：2005 年 10 月 28 日（金）

会場：カトリック大名町教会

内容：カンボジアの高校生による伝統舞踊公演。JLMM 活動報告。

12. 会議

(1) 運営委員会

開催回	開催日	会場	議 題
第 1 回	2005 年 5 月 23 日	フランシスコ会ヨゼフ修道院	<ul style="list-style-type: none"> ・各国活動状況について（浅野美幸一時帰国、平西紀一時帰国、近藤周任期短縮、泉純孝任期短縮について） ・日本カトリック信徒宣教師会 2004 年度活動報告（案並びに決算報告（案）について ・2005 年度長期海外研修について ・今後の会について ・その他
第 2 回	2005 年 7 月 11 日	フランシスコ会ヨゼフ修道院	<ul style="list-style-type: none"> ・各国活動状況について（山手雅子任期短縮について） ・顧問司教の推薦について ・事務局長の任命について ・次期運営委員の選任方法について ・2006 年度候補者募集について ・その他
第 3 回	2005 年 9 月 26 日	フランシスコ会ヨゼフ修道院	<ul style="list-style-type: none"> ・各国・国内活動状況について ・顧問司教について ・2005 年度派遣国について ・来年度派遣候補者面接について ・次期運営委員の推薦方法について ・その他

第4回	2005年 12月5日	フランシスコ会ヨゼフ修道院	<ul style="list-style-type: none"> ・各国・国内活動状況について ・2006年度派遣候補者について ・その他
第5回	2006年 2月27日	フランシスコ会ヨゼフ修道院	<ul style="list-style-type: none"> ・次期運営委員について ・各国活動状況について（浅野美幸任期延長） ・2006年度事業計画（案）並びに収支予算書（案）について ・2006年度研修について ・その他

(2) 広報委員会

昨年度に引き続き広報委員会を3回開催し、会の広報の展開等について審議した。

委員：4名

会議の開催日と会場、議題：

開催回	開催日	会場	議 題
第1回	2005年 7月27日	聖パウロ女子 修道会	<ul style="list-style-type: none"> ・ミッション年間計画について ・チャリティーイベントについて ・ホームページについて ・その他
第2回	2005年 10月6日	聖パウロ女子 修道会	<ul style="list-style-type: none"> ・チャリティーイベントについて ・クリスマス献金について ・ミッションレイアウトについて ・ホームページ開設準備 ・その他
第3回	2006年 2月9日	聖パウロ女子 修道会	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロネシア証言集について ・イースターチラシについて ・ミッションレイアウトについて ・ミッション来年度年間計画について ・その他

収支計算書

自2005年4月1日 至2006年3月31日

NO. 1
(単位:円)

収入の部

科 目 名		05年度予算A	05年度決算B	増減額B-A	増減率B/A	備 考
収入の部	会費収入	4,000,000	2,314,000	-1,686,000	57.9%	
	寄付金収入	17,000,000	16,363,805	-636,195	96.3%	
	補助金助成金収入	995,000	331,800	-663,200	33.3%	海外宣教者を支援する会
	受取利息	10,000	8	-9,992	0.1%	
	雑収入	10,000	0	-10,000	0.0%	
	当年度収入合計 (A)	22,015,000	19,009,613	-3,005,387	86.3%	
前年度繰越金 (B)		3,000,000	2,764,702	-235,298	92.2%	
収入合計 (C)=(A)+(B)		25,015,000	21,774,315	-3,240,685	87.0%	

支出の部

科 目 名		05年度予算A	05年度決算B	増減額B-A	増減率B/A	備 考		
支出の部	運 賃	1. 人件費 (D)	7,578,000	7,616,917	38,917	100.5%		
		人件費	給料手当	6,144,000	6,144,000	0	100.0%	2名分
			通勤手当	588,000	587,760	-240	100.0%	
			退職金	0	0	0		
			法定福利費	828,000	867,017	39,017	104.7%	
			福利厚生費	18,000	18,140	140	100.8%	健康診断
	営 業 費	事務管理費	2. 事務運営費 (E)	1,983,000	1,902,817	-80,183	96.0%	
			会議会場費	20,000	25,000	5,000	125.0%	
			会議食事代	20,000	0	-20,000	0.0%	
			会議旅費交通費	80,000	0	-80,000	0.0%	
			電話料	400,000	626,014	226,014	156.5%	
			郵便切手送料	180,000	137,580	-42,420	76.4%	
			印刷コピー代	125,000	122,135	-2,865	97.7%	
			備品費	0	0	0		
			旅費交通費	150,000	30,000	-120,000	20.0%	
			消耗品費	200,000	24,918	-175,082	12.5%	
			リース料	732,000	728,520	-3,480	99.5%	
			支払手数料	0	133,550	133,550		振替手数料等
			諸会費	10,000	10,000	0	100.0%	
			水道光熱費	36,000	65,100	29,100	180.8%	
	維持管理費	10,000	0	-10,000	0.0%			
	慶弔費	20,000	0	-20,000	0.0%			
	運営費支出合計 (F)=(D)+(E)		9,561,000	9,519,734	-41,266	99.6%		
活 動 費		研修費	2,254,000	1,876,720	-377,280	83.3%		
		派遣活動費	5,620,000	3,672,049	-1,947,951	65.3%		
		調査研究費	3,563,000	2,840,424	-722,576	79.7%	職員1名分含む	
		広報活動費	2,360,000	2,281,492	-78,508	96.7%		
		行事費	400,000	0	-400,000	0.0%		
活動費支出合計 (G)		14,197,000	10,670,685	-3,526,315	75.2%			
運営費活動費計 (H)=(F)+(G)		23,758,000	20,190,419	-3,567,581	85.0%			
固定資産除却		0	0	0				
財務支出合計 (I)		0	0	0				
当年度支出合計 (J)=(H)+(I)		23,758,000	20,190,419	-3,567,581	85.0%			
当期収支差額 (K)=(A)-(J)		-1,743,000	-1,180,806	562,194	67.7%			
次期繰越収支差額 (L)=(C)-(J)		1,257,000	1,583,896	326,896	126.0%			

貸借対照表

日本カトリック信徒宣教者会

2006年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
預金	1,698,975	
立替金	73,395	
流動資産合計		1,772,370
2 固定資産		
什器備品	44,231	
電話加入権	74,984	
固定資産合計		119,215
資産の部合計		1,891,585
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金	188,474	
流動負債合計		188,474
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	2,938,162	
当期正味財産増加額	△ 1,235,051	
正味財産合計		1,703,111
負債及び正味財産合計		1,891,585

財 産 目 録

2006年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
預 金			
三菱東京UFJ銀行	1,474,429		
郵便振替口座	224,546		
立替金			
近畿日本ツーリスト			
カトリック新聞広告費	73,395		
流動資産合計		1,772,370	
2 固定資産			
有形固定資産			
什器備品			
パソコン2台	44,231		
無形固定資産			
電話加入権			
0424-42-4334	74,984		
固定資産合計		119,215	
資産合計			1,891,585
II 負債の部			
1 流動負債			
預り金			
コンポルアン支援金	121,010		
社会保険料	67,464		
流動負債合計		188,474	
負債合計			188,474
正味財産			1,703,111

正味財産増減計算書

2005年4月1日から2006年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
I 増加の部		
増加額合計		0
II 減少の部		
1 資産増加額		
当期収支差額	1,180,806	
減価償却額	54,245	1,235,051
減少額合計		1,235,051
当期正味財産増加額		△ 1,235,051
当初正味財産額		2,938,162
期末正味財産合計額		1,703,111

計算書類に対する注記

1 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却について
有形固定資産の減価償却は定額法を採用している。
- (2) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金及び前払費用を含めることにしている。なお、当期末残高は2に記載のとおりである。

2 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高
預 金	2,831,103	1,698,975
立替金	0	73,395
合計	2,831,103	1,772,370
預り金	66,401	188,474
合計	66,401	188,474
次期繰越収支差額	2,764,702	1,583,896

3 有形固定資産の取得価額、当期償却額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価格	前期末残高	当期償却額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	523,530	98,476	△ 54,245	△ 479,299	44,231
合計	523,530	98,476	△ 54,245	△ 479,299	44,231

監査意見書

日本カトリック信徒宣教者会会則第13条第4項の規定に基づき、2005年度における事業の執行状況並びに財務の状況について、当該年度の活動報告書及び収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表並びに財産目録、更にはこの内容を証する関係諸帳簿、証拠書類等を精査したところ、いずれも適正に処理されていると認められた。

2006年 5月19日

日本カトリック信徒宣教者会

監 事

徳 修



2006年 6月10日

日本カトリック信徒宣教者会

監 事

荒川 治

